

【1】 学校教育目標

やさしさいっぱい 夢がいっぱい 笑顔いっぱい 楽しい壱小！

**本校の教育目標**  
自ら学び、心豊かにたくましく生きる子

めざす学校像

- ・仲間と共に高め合う学校
- ・どの子も生かされ伸びていく学校
- ・地域に開かれ、信頼される学校

めざす児童像

- ・自ら学び、よく考える子
- ・思いやりのある子
- ・心身ともに健康でたくましい子

めざす教師像

- ・組織の一員として責任感のある教師
- ・専門職として自らを磨く教師
- ・教育愛に満ちた温かさと厳しさのある教師
- ・夢や希望を持たせる教師



- ・楽しい授業・工夫のある授業を通して、主体的に学ぶ意欲を育て、確かな学力を身につけさせ、創造力豊かな子どもの育成に努める。
- ・学習や生活の基盤として、基本的な生活習慣や社会規範を身につけさせ、思いやりの心や自主性を育てる。
- ・自尊感情を高めるとともに、仲間と協力し合い、共に伸びることの大切さや喜びを味わえるような集団づくりに努める。
- ・運動する楽しさが分かる体育科授業や運動に親しむ活動の充実・外遊びの奨励など、体力向上に努める。

【2】 研究主題

## ◆ 言語活動を充実させた指導法の研究

—— コミュニケーション力の向上をめざして ——

### 主題設定について

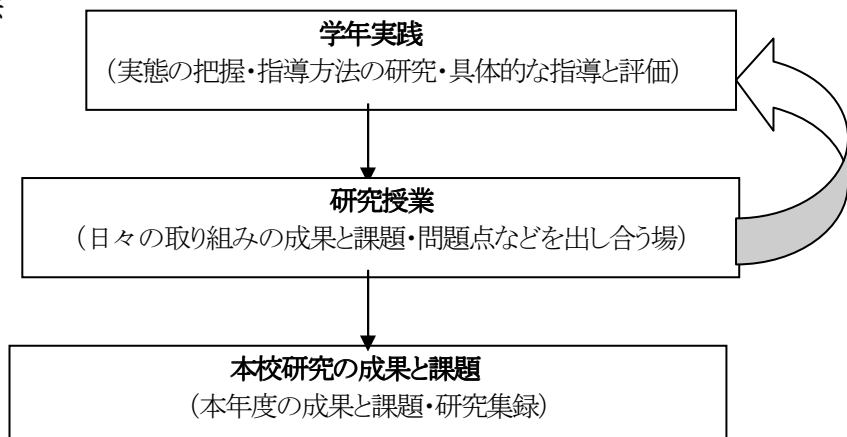
一昨年度までは、「話す・きく力」の育成を目指し、スピーチ活動や国語科を中心とした授業研究に取り組んできた。その積み重ねを生かして、昨年度はコミュニケーション力の育成を目指し、人との「つながり」をキーポイントに総合的な学習の時間や生活科の授業研究に取り組んだ。

その結果、グループで話し合う力や自分の考えをもって発表しようとする力が育ってきた、という成果がみられてきた。しかし、発表については基本的な方法が定着してきたところで、その方法や意見交流の仕方を深めていく必要がある、研究主題についてどこまで達成できたのか十分わからないという課題が残った。

そこで、本年度も引き続きコミュニケーション力を高めることを目指し、その手立てとして言語活動を充実させた指導法について研究していく。『授業研究』に取り組み、日々の学習指導を充実させる。また、『表現を豊かにする活動』『基礎学力の充実』についても引き続き取り組み、組織的・計画的・系統的に進めることで、すべての児童に確かな学力を付けていきたいと考える。

以上三つの取り組みを通して、本年度は児童のコミュニケーション力における課題を把握し、表現力を向上させたい。

### 【3】研究方法



#### (1) 各学年の実践レポートの作成・討議

- ・児童の実態と学習指導要領に基づき、国語科における言語活動について実践を積み重ねていく。
- ・実践の成果と課題（児童の変容や成長過程など）をまとめ、全体で研修し、交流する。

## (2) 研究授業の充実

### ①研究授業

- 国語科のA領域「話すこと・聞くこと」の言語活動にしばって行う。
- 全体研修 2回（低学年1、高学年1）  
全員で参観し、講師を招聘しての研修。  
 公開授業・研究協議を行う。
- 学年研修 4回（全体研修を行わない学年）  
 公開授業・研究協議を行う。  
 必ず各学年（いちぶ、専科・少人数を含む）一人は参加し、  
 学年に研修内容を広げる。
- いちぶ学級研修 1回（学年研修に準ずる）  
 人権教育部の公開授業と兼ねて行う。
- 専科・少人数研修 1回(学年研修に準ずる)

※ 上記の研究授業をしなかった担任は、上記研修に向けての前授業などを行い、学年での研修を深める。

### ②研修をするにあたって

- 本時だけでなく、それまでの取り組みを重視する。
- 授業者は、下記のことを指導案配布の際に全体へ伝える。
  - ・「コミュニケーション力の向上」と「言語活動」  
 についての到達目標を明確にし、授業の中で見てほしい（討議してほしい）ところ
  - ・支援を要する子についての実態や支援方法など
- 支援を要する子については児童支援部で研究協議を行い、後日児童支援部から報告する。
- 指導案の形式は、後日提案。

全体研修・・・研究協議の際は、グループに分かれて討議し、全体で交流する。付箋は使わず、一人が記録をとる。

学年研修・・・公開授業日時は、1週間前までに職員に知らせる。

## (3) 表現を豊かにする活動の充実

### ①「話す・聞く」活動の継続

- ・「話す・聞く」の評価規準（別紙）を活用し、国語科の授業で、児童一人一人が

自分の考えなどを話す場をもつ。

- ・評価規準をもとに児童の到達度を確認し、次の活動へ生かす。
- ・他教科や活動の中でも、児童一人一人が発言・発表する場を意図的にもつ。
- ・「1日1回は発表する」など、他教科や活動の中でも自分の考えを進んで話せるように意識付け・意欲付けを行う。
- ・話すだけでなく、意見交流を大切にす。

## ②歌声タイム

- ・歌うことは、声を出す・表情をつくる・自分の思いを伝える力を育てる。
- ・全校で継続的に取り組む。
- ・学級では、水曜日の朝の時間に「歌声タイム」として、各教室で歌う。
- ・全校では、全校朝会の「全校歌声タイム」で声を合わせて歌う。
- ・朝または帰りの時間などを使って、歌を歌うことを習慣にしていきたい。

## (4) 成果を分析するための資料収集

- ・児童の実態と変化を日常的・継続的に把握し、取り組みの成果を明確にできるように児童の変容を分析する。
- ・児童のメモ・レポート・話し方・きき方など変化が分かるものを資料として残しておく。(研究集録へとつなげる)

## (5) 指導法の開発・収集と教師の意識づけ

- ・書籍や雑誌を参考にしたりして研修する。
- ・学年を中心として、常に取り組みを交流して研修を深めていく。
- ・学年実践、および研究授業は、児童の能力を高めるだけでなく、教師としての資質を高めるためのものである。前向きな取り組みができるよう協力して進めていく。

## (6) 豊かな言語環境作り

### ★朝の読書「全校読書タイム」

- 静かに読書する環境作り
- 多くの本に出会うきっかけ作り  
(学級文庫の交換・教科書に出てくる本の紹介など)
- 読書の楽しさを味わうことができる工夫
- 地域の人材活用(読み聞かせ)
- PTAへの呼びかけ(蔵書数を増やす)

※教師がいない状態で読書をさせるにあたって気をつけたいこと

- ・本は、8時30分までに選んでおく。(8時30分からすぐに読書が始められるように)
- ・10分間は、席を立たない。(本を替えに行かない。)しゃべらない。
- ・8時40分になっても教師が戻らない場合の指示をしておく。

★教師も子どもも丁寧語を基本とする。

- ・「美しい日本語を学べる場が学校である」ことを基本に、休み時間も丁寧語で話す。
- ・教師は児童の名前を呼ぶとき、呼び捨てにしない。「～さん」の後に汚い言葉はない。
- ・最低限、人に尋ねるとき、依頼するときは丁寧語で話せるように指導していく。
- ・教師は、適切な日本語を児童に示し、手本となる。

#### 【4】 全校での取り組みについて

##### ★朝の活動

① 8 : 3 0 全校読書タイム（本は事前に各自用意）

8 : 4 0

② 8 : 4 0 朝の会（歌声タイム）

朝の学習タイム（基礎学力充実のための学習活動）

9 : 0 0

##### ★基礎学力充実のための取り組み

###### ○ 計算力向上

- ・本年度も、計算力の維持・向上をはかる。
- ・各学年で児童の実態に応じた内容・やり方を相談して、進めていく。（マス計算にこだわらず、いろいろな計算の力をつける。）
- ・各学年の取り組み方や結果を研修部で情報交換しながら、進めていく。
- ・取り組みの結果を年度末にまとめ、成果について考察する。（年度末の報告に使う。）  
その方法については、研修部で後日検討する。

###### ○ 漢字習得

- ・推進方法を検討していく。
- ・「壱分漢字プリント」（テスト）を活用する。

★掲示物・・・「声のものさし」を教室に掲示し、児童に意識づける。

#### 【5】 研修計画 （26年度）

学期	月	日	研修内容	備考
1	4	16	年間計画及び活動内容について	朝の学習 計算力向上の取り組み
	5	28	学年別研修	学年の取り組み検討

	6			
	7			
	8		講演会	講師
	9			
2	10		全体研修（研究授業・1年）	講師
	11		全体研修（研究授業・4年）	講師
	12			
	1		研修四部会	研修のまとめ，総括の準備
3	2		本年度の成果課題 来年度に向けて	総括（研究集録）
	3			研究集録作成